

問題

■ 本文

須磨には、いとど心づくし〔①〕の秋風に、海はすこし遠けれど、行平の中納言の、「関吹き越ゆる」と言ひけむ〔②〕浦波、夜々はげにいと近く聞こえて〔③〕、またなくあはれなるものは、かかる所の秋なりけり〔④〕。

御前にいと人少なにて、うち休みわたれるに、一人目を覚まして、枕をそばだてて四方の嵐を聞き給ふに、波ただここもとに立ちくる心地して、涙落つともおぼえぬに、枕浮くばかりになりけり〔⑤〕。琴をすこしかき鳴らし給へるが、我ながらいとすごう聞こゆれば、弾きさし給ひて、

恋ひわびて泣く音にまがふ浦波は思ふ方より風や吹くらむ〔⑥〕

と歌ひ給へるに、人々おどろきて、めでたうおぼゆるに、忍ばれで、あいなう起きみつ、鼻を忍びやかにかみわたす。

■ 設問（全21問）

1. 「いとど」の意味を答えなさい。また、本文の「心づくしの秋風」とは、結局どのような秋風のことを言っているのか、わかりやすく説明しなさい。
2. 傍線部①「心づくし」とは、ここではどのような意味か。現代語で答えなさい。（現代語の「心づくし」とは意味が異なる点に注意）
3. 本文中で、源氏が自分の境遇を「行平の中納言」に重ねていると考えられるのはなぜか。二人に共通する点にふれて説明しなさい。
4. 傍線部②「言ひけむ」について、次の問いに答えなさい。

「けむ」の文法的意味（助動詞の意味）を答えなさい。

「行平の中納言」とはだれか、人名で答えなさい。

「関吹き越ゆる」は、もともとだれのどのような和歌をふまえた表現か、簡単に説明しなさい。
5. 傍線部③「聞こえて」を文法的に説明しなさい（動詞の活用の種類と、ここでの意味）。
6. 傍線部③「聞こえて」の主語にあたるものを、本文中から抜き出しなさい。また、ここでの「聞こゆ」は敬語ではないと判断できる理由を答えなさい。
7. 傍線部④「またなくあはれなるものは、かかる所の秋なりけり」を現代語訳しなさい。
8. 傍線部④について、次の語句の意味を答えなさい。

「またなく」

「あはれなり」

文末「なりけり」の「けり」の文法的意味
9. 「御前にいと人少なにて、うち休みわたれるに、一人目を覚まして」とあるが、ここから読み取れる源氏の置かれた状況を、簡潔に説明しなさい。

10. 「枕をそばだてて四方の嵐を聞き給ふ」とは、源氏がどのような様子であることを表しているか。わかりやすく説明しなさい。
11. 「波ただこもとに立ちくる心地して」とは、どういうことか。「心地して」の意味をふまえて現代語訳しなさい。
12. 傍線部⑤「枕浮くばかりになりけり」について、次の問いに答えなさい。

これはどのような状態を表しているか、表現の工夫（誇張）にふれて説明しなさい。

「なりけり」の「に」「けり」の文法的意味をそれぞれ答えなさい。
13. 「涙落つともおぼえぬに」を現代語訳しなさい。また、この一句が傍線部⑤とどのように響き合い、源氏の悲しみの深さを伝えているか説明しなさい。
14. 「琴をすこしかき鳴らし給へるが、我ながらいとすごう聞こゆれば、弾きさし給ひて」について、「すごう（すごし）」の意味を答え、源氏が琴を弾くのをやめた理由を説明しなさい。
15. 傍線部⑥の和歌「恋ひわびて泣く音にまがふ浦波は思ふ方より風や吹くらむ」を現代語訳しなさい。
16. 傍線部⑥の和歌について、次の語句の意味を答えなさい。

「恋ひわぶ」

「まがふ」
17. 傍線部⑥の和歌の「思ふ方」とは、具体的にどこ（だれのいる方角）を指すか答えなさい。
18. 傍線部⑥の和歌の文末「吹くらむ」の「らむ」の文法的意味を答えなさい。また、この「らむ」を導いている係助詞を抜き出しなさい。
19. 傍線部⑥の和歌全体には、源氏のどのような心情がこめられているか。「孤独」「望郷」という語を用いて説明しなさい。
20. 「人々おどろきて……鼻を忍びやかにかみわたす」とは、周囲の人々のどのような様子を表しているか。「忍ばれで」の意味にふれて説明しなさい。
21. 【文学史】『源氏物語』について、次の問いに答えなさい。

作者名を答えなさい。

成立したおおよその時代を答えなさい。

全部で何帖から成る長編物語か答えなさい。

『竹取物語』などの系譜を引く、この作品のような虚構の物語を何と呼ぶか、漢字で答えなさい。